

ドイツ連邦議会 交通・建設・都市開発委員会訪日

日時：平成18年4月21日(金) 10:30～12:30
場所：(財)運輸政策研究機構 2階会議室

出席者

クラウス・W. リッポルト
(キリスト教民主同盟, ドイツ連邦議会交通・建設・
都市開発委員会委員長)
レナーテ・ブランク(キリスト教社会同盟)
ウヴェ・ベックマイヤー(ドイツ社会民主党)
ハイディ・ライト(ドイツ社会民主党)
ヤン・ミュッケ(自由民主党)
ドロテー・メンツナー(左派党)
アントン・ホーフライター(同盟90/緑の党)

中村英夫(武蔵工業大学学長)
森地 茂(当機構運輸政策研究所長)
伊東 誠(当機構常務理事)
藤井 敦(当機構運輸政策研究所主任研究員)
アチャリエ スルヤ ラージ(当機構運輸政策研究所主任研究員)
金 兌奎(当機構運輸政策研究所研究員)
カリ プレサッド ネパール(当機構運輸政策研究所主任研究員)

クラウス・W. リッポルト議員をはじめとするドイツ連邦議会交通・建設・都市開発委員会のメンバー7名が平成18年4月19日から9日間の日程で訪日し、国土交通大臣、衆議院国土交通委員会委員長を表敬訪問するとともに、我が国の交通関係者等と意見交換を行った。委員会のメンバーは4月21日に当研究所を訪れ、冒頭、森地運輸政策研究所長が我が国の鉄道、道路、航空分野の現状と政策の概要について、その後、中村武蔵工業大学学長がドイツと日本を比較しながら両国の交通政策の今後のあり方、道路公団民営化の概要について講演を行った。後半には質疑応答が行われ、道路政策については、道路公団民営化の評価と国鉄分割民営化との比較、ガソリン税の現状について、鉄道政策については、鉄道事故と安全対策、相互直通運転の現状について、政策全般では、少子高齢化社会とインフラ整備の方向性についての質問が相次ぎ活発な意見交換が行われた。

